

進捗状況報告シート

(2010年度・大学)

担当部局は☆印の箇所を記入のこと。

I. 評価項目・要素と担当部局

対象部局	法学研究科
大項目	6 教育内容・方法・成果
中項目	6.4 成果
小項目	6.4.1 教育目標に沿った成果が上がっているか。
要素	学生の学習成果を測定するための評価指標の開発とその適用 学生の自己評価、卒業後の評価（就職先の評価、卒業生評価）
小項目	6.4.2 学位授与（卒業・修了判定）は適切に行われているか。
要素	学位授与基準、学位授与手続きの適切性 学生の自己評価、卒業後の評価（就職先の評価、卒業生評価） 学位審査および修了認定の客観性・厳格性を確保する方策（院）（専門）

II. 自己点検・評価《進捗状況報告》

【現状の説明】

《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定した。

目標の進捗状況は「A:適切に実行している」「B:概ね実行している」「C:必ずしも実行していない」「D:実行していない」とし、自ら評価した。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価
1. 学習成果を図る適切な評価指標を開発するために、まず学習にとって阻害的効果をもたらす諸要因を発見し、これを除去するための検討を行う。	→「学生・教員に対するアンケート調査の実施と分析」「拡大大学院問題検討委員会（およびその内部に設置するWG）における教育効果についての分析・検討」	C
2. 各プログラムに特有の教育上の問題点を発見するための手続を整備する。	→「学生・教員に対するアンケート調査の実施と分析」「プログラム別教員会議の設置と検討の進捗状況」	C
3. 後期課程における論文指導の適切さを高めるために手続の改善を図る。	→「正副指導教員からなる指導委員会による論文指導プロセスの検証と指導項目・指導方法の明文化の検討」「博士学位取得モデルの妥当性に関する定期的な検証とその改善」「内規ないし履修モデルの改正」	B
4. 学位審査の客観性・厳格性を対外的に確保するために学位審査手続の公開性を高める。	→「公開での口頭試問の実施率」「学外・研究科外の審査委員の招聘率」「学位審査手続の公開性を高めるための検討の進捗状況」「規程ないし内規の改正」	B

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価
	→	☆
	→	☆

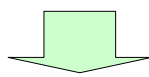
《小項目ごとの現状説明》 ※ 全小項目について記述が必要

☆ 小項目6.4.1	(方針) 前期課程の各プログラム、後期課程の各専攻における教育理念に照らして、その教育効果を短期的のみならず長期的観点からも測定するための手法を検討すると共に、その知見に基づく学位授与基準の見直し、および学位認定手続の透明化、厳格化を図る。 (現状説明) 教育効果の測定については、学生数が少ないため定量的な分析を行う前提を欠いており、現在は院生会との懇談などを通じて、各種資料を収集するための準備を進めている段階である。
☆ 小項目6.4.2	(現状説明) 後期課程における学位認定基準の透明化・厳格化については、2009年度の拡大大学院問題検討委員会においてほぼ合意が成立し、1名の外部審査委員や公開での口頭試問の原則化などについて、2010年度中に規定化する予定である。
☆ その他	

◎効果が上がっている事項

【点検・評価 (1)】効果が上がっている事項

小項目6.4.1	
★小項目6.4.2	2009年度における後期課程の学位審査においては、2件の学位請求のいずれについても外部審査委員1名を含む審査委員会が設置され、公開での口頭試問（口述試験）が実施されている。
その他	



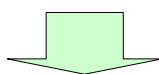
【次年度に向けた方策(1)】伸長させるための方策

小項目6.4.1	
★小項目6.4.2	
その他	

◎改善すべき事項

【点検・評価 (2)】改善すべき事項

小項目6.4.1	
★小項目6.4.2	
その他	



【次年度に向けた方策(2)】改善方策

小項目6.4.1	
★小項目6.4.2	
その他	

◎自由記述

【点検・評価】&【次年度に向けた方策】

★その他 (自由記述)	
----------------	--

Ⅲ. 学内第三者評価

<評価推進委員会からの評価> (実務作業は評価専門委員会、評価情報分析室、企画室)

【学外委員】

- 「目標」1、2は効果の阻害要因に着目した取り組みで、進展に期待がもたれます。
- 「目標」3、4は6.3の教育方法にかかわるものではないでしょうか。6.4は教育の成果を問う項目なので、課程修了以降に注目して目標を再検討することが望まれます。

【学内委員】

- 後期課程の学位授与の透明化については、順調に進展しています。
- 取り組みが進捗中と判断されます。

Ⅳ. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

- ★目標設定については、今後とも大学院問題検討委員会において変更・追加すべき項目を検討する。

V. 本項目の評価指標

<全学的な指標>

6.4.0.S1	学生の授業評価におけるシラバスの有効性に関する質問への肯定的な回答の比率
6.4.0.S2	定期試験の問題の適切性を検討する会議・委員会の有無と開催頻度
6.4.0.S3	各学部における学生の進路状況
6.4.0.S4	一括申請による教職免許状取得件数および取得者実数
6.4.0.S5	日本学術振興会特別研究員応募者の有資格者に占める割合
6.4.0.S6	各年次セメスターごとの履修単位数制限の状況
6.4.0.S7	成績評価の分布が適正な科目(平均点が70-75点)の比率
6.4.0.S8	GPA値(全学、学部別、男女別など)
6.4.0.S9	修士学位・博士学位・専門職学位の授与数
6.4.0.S10	KGPSの修士学位・専門職学位の授与数
6.4.0.S11	3年卒業の適用者数
6.4.0.S12	ジョイント・ディグリーの授与者数
6.4.0.S13	標準修業年限未満の修了者の数
6.4.0.S14	在学生のうち「この大学で人生の一時期を過ごすことが、将来にとって役立つと思う」人の比率

<個別的な指標>
